

生活単元学習指導案

1. 指導学級 とちのき（自閉症・情緒障害）・あすなる（知的障害）学級 6名
2. 単元名 「お店やさんをひらこう！」
3. 本時のねらい
 - ・教師や友達とのやりとりを楽しみながら、接客の仕方や手順を覚える。
4. ICT 活用の目的, 期待される ICT 活用の効果
 - ① タブレット端末のビデオモデリングアプリ「まねるんです。」を活用し、モデルとなる動作や言葉を繰り返し確かめたり、動画に合わせて一緒に練習したりできるようにすることで、一人一人がしっかりと接客のイメージを持てるようにする。
 - ② タブレット端末で接客の様子を動画撮影し、自分の動作や言葉をすぐに確認することで、自分でより良くする部分を明確にして練習できるようにする。
 - ③ グループごとに撮影した動画を学習活動のまとめの段階で活用することにより、各グループの活動内容をクラス全体で共有し、お互いの良いところを認め合ったり、次時への意欲付けにつながりたりする。
5. ICT 活用コンテンツ・機器
 - ・タブレット端末（2人グループに1台ずつ：計3台） ・大型テレビ
6. 本時の実際

| | 主な学習活動 | 教師の支援 (○) および評価 (◇) | 形態 | 準備物 |
|-----|---|---|------|----------|
| 導入 | 1 あいさつをする。 2 本時のねらいを知る。 3 接客のポイントを確認する。 | ○T1 に注目し、良い姿勢であいさつできるように促す。 ○ねらいを確認し、児童の発言を取り入れながら、接客の手順を板書する。「相手の目を見る」「笑顔で」「両手で渡す」等の接客のポイントは、イラストで視覚的に分かりやすく示す。 | 一斉 | |
| 展開 | 4 接客のイメージを持つ。 5 接客の練習をする。 ・一人ずつ練習 ・ペアで練習（役割分担） | ○グループごとに、タブレット端末（「まねるんです。」）を使ってモデルとなる動画を視聴する。 ○児童が、繰り返し動画と一緒に動作や言葉を練習したり、ポイントを確認したりできるよう支援する。 ○役割分担し、お客さんとのやりとりを楽しみながら、接客の練習が行えるよう支援する。 ○やりとりの様子を動画で撮影し、すぐに自分で動作や言葉の振り返りができるよう支援する。 ○動画を見ながら、良いところや直すべきところを児童自身が見つけられるよう支援する。 ◇教師や友達とのやりとりを楽しみながら、接客の仕方や手順を覚えていたか。 | グループ | ・タブレット端末 |
| まとめ | 6 動画を見て、お互いに良いところを見つける。 7 次時への見通しをもつ。 8 あいさつをする。 | ○グループごとに撮影した動画を全体で見ながら、お互いの良いところを見つけられるようにする。 ○動画を見比べることで、練習を重ねるごとにうまくなっていくことを実感させ、次時の活動への見通しや意欲につなげる。 ○T1 に注目し、良い姿勢であいさつできるように促す。 | 一斉 | ・大型テレビ |

7. 成果と課題

タブレット端末を効果的に活用することで、児童が楽しみながら主体的に活動を進めることができた。また、確認したい部分や練習したい部分を繰り返し動画で視聴し、イメージや目的を持って練習に取り組みたり、自分の動作や言葉をすぐに確認できることで、他者から指摘されることに抵抗のある児童も自分で改善点を見つけて意欲的に練習できたりと、児童一人一人が実態に合わせて活動を進めることができた。今後、児童がねらいに合わせて自分でタブレット端末を操作できるよう経験を積むことで、活用の幅を広げていきたい。